

1) 移動阻害

本調査において確認された陸上動物のうち、ヤシガニ及びオカヤドカリ類は、幼生放出のために降海し、陸と海を往来することから、施設の存在により移動経路の分断が生じるおそれがあるものと考えられる。図-6.9.2(37)にこれら重要な種の確認地点を示す。

表-6.9.2(11)に示すとおり、オオナキオカヤドカリ、コムラサキオカヤドカリについては海浜部のみで確認しており、事業実施区域内や、それより陸側では確認していない。オカヤドカリは海浜部に加えてカタフタ山、ゴルフ場などの内陸部でも確認しているが、数が多かったのはゴルフ場内の事業実施区域内であった。ムラサキオカヤドカリは主に海浜部で確認しているが、ゴルフ場内においても少数を確認した。ヤシガニは海浜部に加えてタキ山東やゴルフ場などの内陸部でも確認した。ナキオカヤドカリは海浜部に加えてゴルフ場、小河川周辺でも確認した。

内陸部でも確認されたオカヤドカリ、ムラサキオカヤドカリ、ナキオカヤドカリ、ヤシガニについては繁殖期の海浜部への移動の際に影響が生じる可能性もあるが、直立した擁壁などの構造物が海浜部に設置されることはなく、海浜部のモクマオウ植林及び海浜植生は現状のまま残され、海岸線近くまで張り出した植生が保たれることから、空港を迂回して海浜部へ降りていくことは可能であると考えられる。

また、着陸帯北側及び北側進入灯部分には事業の計画段階で講じた環境保全配慮として、ボックスカルバートを設置することにより海浜部への移動経路として利用可能であることから、移動阻害のおそれはほとんどないものと考えられる。

表-6.9.2(11) 移動阻害のおそれがある種

種	確認状況
オオナキオカヤドカリ コムラサキオカヤドカリ	海浜部、轟川河口などで確認。 内陸では確認なし。
オカヤドカリ ヤシガニ	海浜部に加えてカタフタ山、タキ山東、ゴルフ場などの内陸部でも確認。
ムラサキオカヤドカリ ナキオカヤドカリ	海浜部に加えてゴルフ場、小河川周辺でも確認。